

## 地方と担い手

### 地方の衰退と未来への課題

担い手の確保や育成という言葉が身の回りでも使われ始めてもう何年もたつと思います。技術士会北海道本部ではさまざまな活動が活発に行われています。また私の所属する旭川の業界団体でも、官民が連携して担い手育成のための活動を幅広い対象に行っていますし、道北技術士委員会でも関心を寄せる担い手問題についての講演を実施するなど、各方面でさまざまな取り組みが進められています。

一方であらゆる業種の大企業において大卒初任給が30万円を超える時代に突入しました。中小企業は同様の施策を行うことは現状では困難で厳しい。お金の話の前に、まずはいかにして若者が働きたいと思える業界や会社となれるかを考えてみました。

### 若者が求めるやりがいと成長

昨今の若者は働くことにやりがいを求める傾向があるといわれています。そのため、建コン業界をはじめ多くの会社では「社会資本整備を通じた地域貢献」という感じの理念を掲げています。私の会社も同様です。ただ、自分自身を振り返ると大学卒業後に東京のゼネコンで働き、大江戸線や副都心線などの大規模な地下鉄工事に携わりました。確かにその社会的意義や知名度、スケールには誇りを感じる部分もありましたが、よりやりがいを感じたのは、資格試験の勉強に取り組んで合格できたり、小規模な下水道工事の責任者に抜擢され、仕事を完遂できたりした時の高揚感は忘れえぬ成長実感でした。

若者に来てもらいたい業界や会社であるためには、自己成長を実感できる環境を整えることが必要だと考えます。地方の中小企業であっても、資格取

高桑 史郎(たかくわ しろう)

技術士(建設/総合技術監理部門)

日本技術士会北海道本部

地方委員会(道北技術士委員会)代表

(株)フジ土木設計 代表取締役



得を奨励し、切磋琢磨できる文化や、当人の努力と意欲があれば若手に責任ある仕事を任せる仕組みを作ることで、成長の機会を提供できると思います。

### 中小企業の成長と課題

しかし、中小企業の経営者として懸念しているのは、個人の成長に企業の成長が追いつけない場合です。成長した技術者が所属する会社に満足できなくなる時が来るのではと不安なものです。そのため、中小企業も持続的に成長していく必要があります。

一方で、日本全体ではこの30年間、経済成長が停滞しており、公共投資も増えていません。2024年の報道によれば、北海道の65%の市町村が2050年までに消滅する可能性があるという研究がありました。このレベルの課題は一企業や団体の努力だけで解決できるものではありません。

### 地方の未来を支えるために

まずは何より大事な賃上げは大きな課題ですが、国としては必要な財政措置を取らずに企業に賃上げを要請するのみです。日経平均は最近ようやく34年前のレベルに戻りましたが、東証ではPBR(株価純資産倍率)が1.0を切る企業が約半数という世界的にあり得ない惨状であるにもかかわらず、これも各企業への改善勧告にとどまる状況です。さすがに企業努力で埋められない課題に対して、大きな対策を講じてもらいたいというのは甘えにはならないはずですが、地方の中小企業に対して一定の受注を促し、安定的に成長できる環境を整えることが、地域の未来をより明るくすると考えています。もちろん団体としても企業としても個人としても競争と品格を持ち続けながら、努力していきたいです。